

普及活動情勢報告（平成 26 年 5 月分）

安芸農業振興センター

情勢報告

今年もますます環境保全型農業推進！ ～第 1 回目の地区会開催～



赤野地区会での風景

今年も第 1 回目の安芸市環境保全型農業学習会(通称：地区会)を 4 月 22 日～25 日に安芸市内 4 か所で開催し、生産者 55 人が参加した。本会は安芸市の環境保全型農業の普及推進を目的に安芸市、J A、振興センター共催で年 3 回開催している。今回、振興センターは病害虫防除技術や炭酸ガス日中低濃度施用による増収技術を紹介した。参加者からは、炭酸ガス施用効果や銅剤等を活用した耐性菌の発生しにくい病害管理技術に関する熱心な質問が出された。

今後、振興センターは天敵等利用技術とともに最新の環境制御による増収技術についても情報発信する。

換気のタイミングは難しい ～J A室戸支所オクラ部会の開催～



今年の生え揃えは良い

4 月 23 日、J A土佐あき室戸支所オクラ部会の現地検討会が開催され生産者 10 人が参加した。

振興センターは、巡回した圃場ごとに栽培管理（換気、灌水・追肥の施用）を指導し、その後、今後の栽培方法について資料を使って、説明した。生産者からは、「換気が遅れたようだがどの程度穴をあけた方が良さだろうか」等の質問が出された。

今後とも、J Aと協力して 5、6 月にも現地検討会を定期的に行い、基本的な栽培管理の徹底を図り、安定した収量が上がるよう指導する。

環境制御に興味を沸かしたブルースター現地検討会



花飛びは少なかったねえ

4 月 24 日、J A土佐あきブルースター部会の現地検討会が開催され、9 人が参加した。

巡回時に「花飛び症状が 25 年度は少なかった。農薬が効き、薬害の出ない濃度は？」等、多くの話題が話し合われた。

振興センターから、この 2～4 月に測定した炭酸ガス濃度、湿度、温度のデータを示すと部会員が非常に興味を示し、「次作で炭酸ガスを入れて試験しよう」、「炭酸ガス発生装置の事業はないか?」、「先進地のオランダへ行こう」等の意見が出た。

今後、振興センターでは次作で炭酸ガス等環境制御下での収量・品質の関係を明らかにする。

「平成 27 園芸年度ハウス野菜栽培管理こよみ」作成中！



こう変えた方がええがやない？

4 月 30 日から 5 月 21 日にかけて、振興センターと J A 土佐あき営農指導員による「平成 27 園芸年度ハウス野菜栽培管理こよみ」（以下、「こよみ」）の検討会を計 4 回開催した。

「こよみ」の各項目ごとに担当者を割り当て栽培管理方法の検討や農薬の更新等のチェックを行い、全体で共有した。生産者に安心して活用してもらうため、特に農薬関連事項は厳密に検討した。

今後、充分な校正を行い、7 月中に「こよみ」の完成・配布を目指す。

今年も活動していきます ～安芸・室戸地区農村女性リーダー総会～



真剣に活動計画の検討中です

4 月 30 日、安田町ふれあいセンターで、15 名が参加して安芸・室戸地区農村女性リーダー総会が開催された。

女性リーダー自ら企画・運営して地区の「つどい」や研修会などの取組を検討し、今年改選となる農業委員への積極的な女性登用について、各市町村に要望書を提出すること等が決まった。振興センターはリーダーの活動に対する助言を行った。

今後も農村女性リーダー協議会活動や農村女性の経営参画・地域活動への支援を継続して行う。

美味しい新茶ができました！ ～新茶まつり・安芸市茶業振興会～



地元産の新茶はいかがですか

5 月 7 日、安芸駅前広場で新茶まつりが開かれた。

今年度も香り高い新茶が安芸市東川と旭が丘地区で作られた。霜害など大きな事故もなく順調に生育し、4 月末から新茶の摘採、加工が始まった。

生産者、市役所、振興センター職員らが呼び掛け、J A 土佐あき職員による入れたての一番茶を、観光客や地元市民にふるまい、香り、味を楽しんでいただいた。

振興センターでは今後も開発中の紅茶やほうじ茶の品質向上を支援するとともに、10 月に 2 小学校で行われる出前授業で、安芸市の茶を PR する。

産地を盛り上げて行こう！ ～芸東地区(室戸市、東洋町)全戸訪問実施～



今、気をつける管理は何？

J A 土佐あきと振興センターは、芸西地区（25 年 11 月）、安芸地区（1 月）、中芸地区（4 月）に続いて、5 月 8 日、芸東地区ナス及びピーマン農家 61 戸を対象に全戸訪問を行った。

振興センターから管内で実施している炭酸ガス施用試験の中間報告書や新病害の資料等を配布しながら、情報交換し、この時期の栽培管理について指導した。実証試験の結果等に興味を示す農家もいた。

今後は、この活動を通じて得られた農家の意向や要望を取りまとめ、J A と連携した指導活動に活用する。

ナス産地を担う若者達、共に研修しています ～研修生ハウス巡回～



受入農家から栽培のポイントの説明

5月9日、振興センターは田野町担い手育成支援協議会と連携し、新規就農研修支援事業で施設ナス栽培に取り組む研修生と受入農家4組8名でハウスを巡回した。

研修生は互いの受け入れ農家とそれぞれの圃場での生育状況や病害虫の発生状況など栽培管理のポイントを話し合った。振興センターは、今後の研修予定などを説明した。研修生は農家によって摘葉方法や実のつき方の違うことに驚いていた。

今後も、振興センターでは、研修生の技術修得や就農条件の整備に向けた研修会の開催等を支援する。

東大野集落営農組織の役員会・オペレーター部会で特裁米・にがり米について話し合い



上手にお米をつくらないかん！

5月13日に、前回の役員会で特別栽培米の新規導入が決定したことを受け、水稻の苗を引き取る前作業の確認と段取りのため5名が参加して、役員・オペレーター合同会議が開催された。

会では、6月3日の苗の受け渡し日までに水田になるよう堆肥の散布、畦塗り等の段取りやにがりを使用した特別栽培米(にがり米)の試験区が決定された。また、にがり米のマニュアルづくりや一般農家向けの栽培講習会の実施を計画した。

今後も振興センターでは、役員会・オペレーター部会を通じて適期の作業、栽培管理ができるように指導する。

北川村ハウスゆず研究会を開催



情報交換会の風景

5月14日に生産者3名が参加し、北川村ハウスゆず研究会が開催された。

ハウス巡回ではそれぞれのハウスの着果量や肥大状況等を確認し、出荷時期や出荷規格について検討した。

その後の情報交換では、JA、振興センターから、本年度の出荷計画や病害虫防除等の今後の栽培管理についてのアドバイスや他地域の作柄状況などの情報提供を行った。

今後、振興センターはJAと協力して、ハウスゆずの安定生産を支援する。

次園芸年度に向けた種苗農薬検討会を開催



この農薬は使うてもいいね

5月19日、JA土佐あき園芸研究会主催の「平成27園芸年度に向けた種苗農薬検討会」が開催された。この会議は近年、ナス苗で発生した病害対策を契機に、種苗販売会社と育苗時の使用農薬を検討するため、振興センターの呼びかけで26園芸年度から始まった。今回は新たに生産者も参加し、関係者と併せて41名が参加した。

検討会では病害対策の徹底は勿論、天敵放飼を前提とした使用農薬を協議した。今後、検討結果を基に育苗時使用農薬リストを作成して種苗販売会社に通知し、産地への健全苗の供給を依頼する。

やってみんかよ！ ～県育成オリジナルナス品種‘土佐鷹’の個別推進～



‘土佐鷹’の必要性をPR

振興センターでは、市場や消費者から「軟らかく、アクが少なく、美味しい」「漬け物での漬け上がりがきれい」などと増産の要望が高い‘土佐鷹’の栽培面積拡大のため、関係機関と協力して次作の苗の注文時期である2～5月にかけて個別推進を行った。

また、‘土佐鷹’での新技術導入(炭酸ガス施用等)でさらなる増収・増益が見込まれていることをアピールし、次作での栽培を働きかけた。

今後、各部会・研究会などで‘土佐鷹’圃場での新技術の実証成果などを報告し、27園芸年度の収量・品質の向上を目指して指導する。